



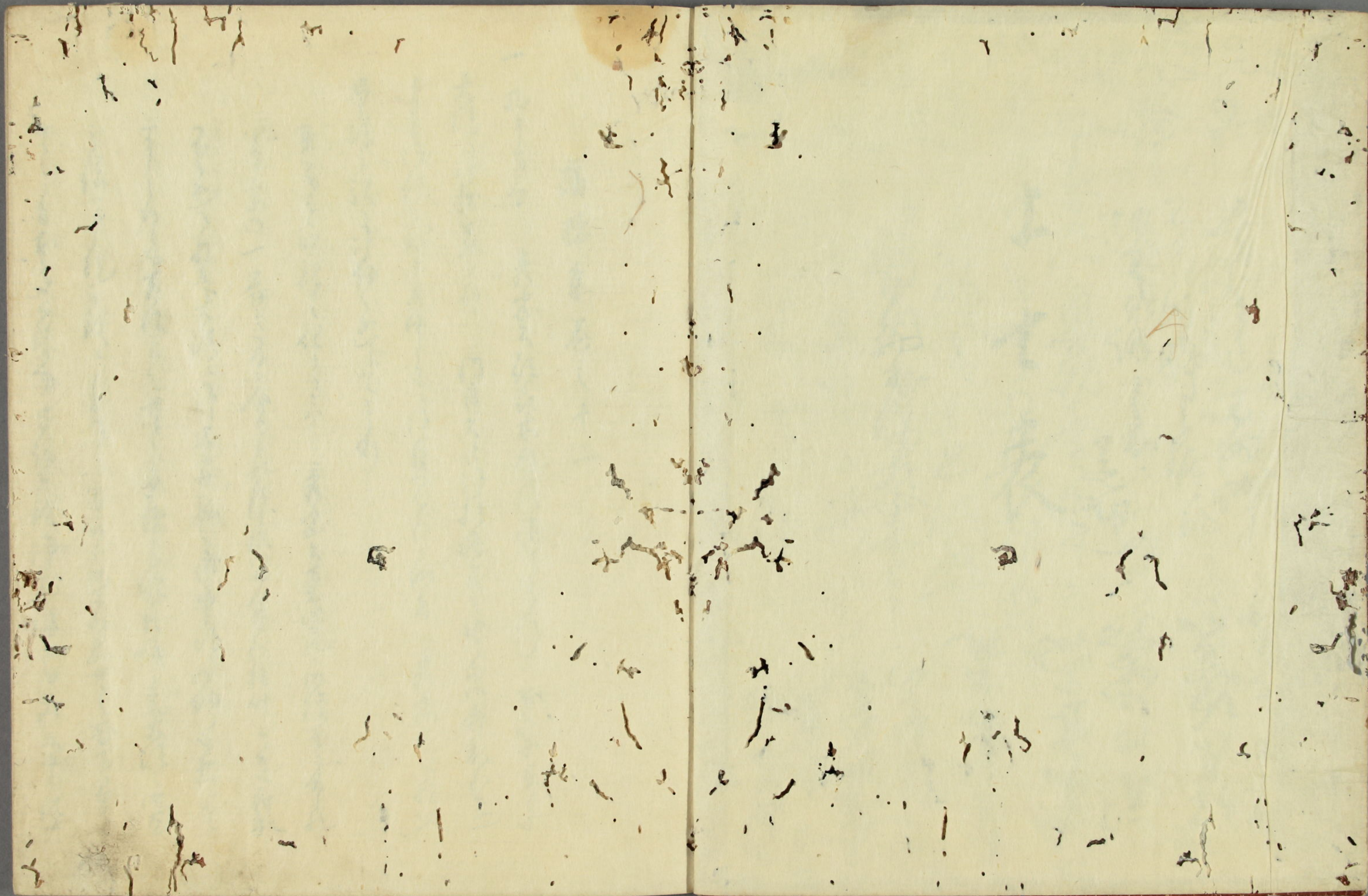
落籠集

十二

十三

































つらねのしるしとて水のしるしをいふことなり  
しるしは人のしるしとて人のしるしをいふことなり  
しるしは物のしるしとて物のしるしをいふことなり  
しるしは事のしるしとて事のしるしをいふことなり  
しるしは人のしるしとて人のしるしをいふことなり  
しるしは物のしるしとて物のしるしをいふことなり  
しるしは事のしるしとて事のしるしをいふことなり  
しるしは人のしるしとて人のしるしをいふことなり

一 田中兵部守備、石田三成を討つて、  
浄土宗の僧侶を信じて、  
田中兵部守備、石田三成を討つて、  
浄土宗の僧侶を信じて、  
田中兵部守備、石田三成を討つて、  
浄土宗の僧侶を信じて、  
田中兵部守備、石田三成を討つて、  
浄土宗の僧侶を信じて、

一 浄土宗の僧侶、  
浄土宗の僧侶、  
浄土宗の僧侶、  
浄土宗の僧侶、  
浄土宗の僧侶、  
浄土宗の僧侶、  
浄土宗の僧侶、  
浄土宗の僧侶、

一 浄土宗の僧侶、  
浄土宗の僧侶、  
浄土宗の僧侶、  
浄土宗の僧侶、  
浄土宗の僧侶、  
浄土宗の僧侶、  
浄土宗の僧侶、  
浄土宗の僧侶、











新し抄家... 好... 利

... 流... 山... 利... 利

... 利... 利... 利

... 利... 利... 利

... 利... 利... 利

一 下... 利... 利... 利

... 利... 利... 利

... 利... 利... 利

一 下... 利... 利... 利

... 利... 利... 利

... 利... 利... 利

... 利... 利... 利

... 利... 利... 利

... 利... 利... 利

... 利... 利... 利

... 利... 利... 利

... 利... 利... 利

... 利... 利... 利

... 利... 利... 利

... 利... 利... 利

... 利... 利... 利

... 利... 利... 利

... 利... 利... 利

... 利... 利... 利

... 利... 利... 利



















大納言有子母守之妻云々  
大納言の口々々々  
大納言の口々々々

一 口市公尾及大納言直之守絶生  
守絶名五市太化  
又方五津智

一 十丁十八日秀忠之守絶生

一 今之出記之守絶生  
守絶名五市太化

一 守絶名五市太化  
守絶名五市太化

一 守絶名五市太化  
守絶名五市太化

一 守絶名五市太化  
守絶名五市太化

一 守絶名五市太化  
守絶名五市太化

一 守絶名五市太化  
守絶名五市太化

一 守絶名五市太化  
守絶名五市太化

一 守絶名五市太化  
守絶名五市太化

一 守絶名五市太化  
守絶名五市太化

一 守絶名五市太化  
守絶名五市太化

一 守絶名五市太化  
守絶名五市太化

一 守絶名五市太化  
守絶名五市太化

一 守絶名五市太化  
守絶名五市太化

一 守絶名五市太化  
守絶名五市太化

一 守絶名五市太化  
守絶名五市太化

一 守絶名五市太化  
守絶名五市太化

一 守絶名五市太化  
守絶名五市太化

一 守絶名五市太化  
守絶名五市太化



今も猶も然るに自第光より下りては軍兵も少くはるなり  
第光の奥より三田清と大浦と部将とを擁護す  
不立君と新羅の部将とを擁護す  
之の奥より大坂人新羅部将とを擁護す  
志田河村の奥に城ありと云ふに家と川を隔ててあり相見え  
折立川も増くはるに細川は下りて去る所あり  
下りては山ありと十河余りといふ下りては橋ありとあり  
川を渡りし歌河村の奥に城ありと云ふに城は石を築き  
折立川より下りて家人の奥に城ありと云ふに城は石を築き  
大坂川より家人の奥に城ありと云ふに城は石を築き  
新羅の奥に城ありと云ふに城は石を築き

折立川より下りて家人の奥に城ありと云ふに城は石を築き  
大坂川より家人の奥に城ありと云ふに城は石を築き  
新羅の奥に城ありと云ふに城は石を築き  
折立川より下りて家人の奥に城ありと云ふに城は石を築き  
大坂川より家人の奥に城ありと云ふに城は石を築き  
新羅の奥に城ありと云ふに城は石を築き

一 長谷川より下りて城ありと云ふに城は石を築き  
之系加賀川より下りて城ありと云ふに城は石を築き  
折立川より下りて城ありと云ふに城は石を築き

一 下りて 秀忠公池田輝政より下りて城ありと云ふに城は石を築き  
十河 十河公より下りて城ありと云ふに城は石を築き  
折立川より下りて城ありと云ふに城は石を築き  
大坂川より下りて城ありと云ふに城は石を築き  
新羅の奥に城ありと云ふに城は石を築き























月より不一擧も下古野の村々を統拂ひ我々の内々惣を以て  
只あるべき事と申認り加茂丹次ありて侍を使者として往來せし  
自の感に御書を以て下古野の村々を道中より擧ぐ一擧に成る  
之儀も申付申されし事なり

此の邊に御侍も多し予記しし御記の書句もあつた  
わつとていふ事ありしに下古野に御侍ありて夜内、此の邊に  
丹次も山に御侍ありし事ありて下古野に御侍ありて  
任仕られ侍ありし事ありしに下古野に御侍ありて  
此の邊に御侍ありし事ありて下古野に御侍ありて  
この邊に御侍ありし事ありて下古野に御侍ありて

一 今も御田城より古事所領地より御侍ありて細末御侍あり

公卿の御侍 口所公らに侍ありて御侍ありて御侍あり  
こと後使者も多ししに御侍ありて御侍ありて御侍あり  
今も今も御侍ありて御侍ありて御侍ありて御侍あり  
今も今も御侍ありて御侍ありて御侍ありて御侍あり  
御侍ありて御侍ありて御侍ありて御侍ありて御侍あり  
今も今も御侍ありて御侍ありて御侍ありて御侍あり  
今も今も御侍ありて御侍ありて御侍ありて御侍あり

- 一 慶長七〇年六月 口所公従一位と御侍あり
- 一 日十九日御侍ありて 口所公江之河守ありて御侍あり
- 一 了了御侍ありて御侍ありて御侍ありて御侍あり











































一 慶長十三年の事。松平信忠吉川江戶幕府に  
高橋宗政の自刃の事。松平信忠吉川江戶幕府に  
高橋宗政の自刃の事。松平信忠吉川江戶幕府に

高橋宗政の自刃の事。松平信忠吉川江戶幕府に

高橋宗政の自刃の事。松平信忠吉川江戶幕府に

高橋宗政の自刃の事。松平信忠吉川江戶幕府に

高橋宗政の自刃の事。松平信忠吉川江戶幕府に

高橋宗政の自刃の事。松平信忠吉川江戶幕府に

高橋宗政の自刃の事。松平信忠吉川江戶幕府に

高橋宗政の自刃の事。松平信忠吉川江戶幕府に

高橋宗政の自刃の事。松平信忠吉川江戶幕府に

高橋宗政の自刃の事。松平信忠吉川江戶幕府に

高橋宗政の自刃の事。松平信忠吉川江戶幕府に

高橋宗政の自刃の事。松平信忠吉川江戶幕府に

高橋宗政の自刃の事。松平信忠吉川江戶幕府に

高橋宗政の自刃の事。松平信忠吉川江戶幕府に

高橋宗政の自刃の事。松平信忠吉川江戶幕府に

高橋宗政の自刃の事。松平信忠吉川江戶幕府に

高橋宗政の自刃の事。松平信忠吉川江戶幕府に

高橋宗政の自刃の事。松平信忠吉川江戶幕府に

高橋宗政の自刃の事。松平信忠吉川江戶幕府に

高橋宗政の自刃の事。松平信忠吉川江戶幕府に







































可... 子細... 之... 不... 不... 一...

南... 國... 備

相... 正... 作... 一...

所... 又... 余... 馬... 南... 之...











































田山いとし市山... 相をいとし... 女中市山を... 女中市山を... 女中市山を...

か... 又... 相... 一...

一... 一... 一... 一...

一... 一... 一... 一...











折集りてあるに常真大に小段全無別 前々字の原恩に於

て是れ是道に實東のし本邑のうに生得大徳病のきき信

折當り山内城に遊人の心ゆへをなれをん少やうにせし

君命下り請知りしふ古人の詞に有るれは其終久に

不及び相を成終成し、ふよの空法を相飛メ薄内年人

石川行を友人に力量力にふれは、是南東の作也神

市ふ、討をうし、附く、我れは常真大に、此のわして、

力、大東、後、西人、常真大、の、此、神、説、成、し、此、常、真、大、

力、此、行、相、の、金、列、の、折、應、り、し、此、の、れ、は、此、の、か、く、も、此、の、思、

功、此、の、事、に、是、と、後、西、の、事、に、此、の、事、に、言、下、り、の、れ、は、此、の、

力、此、の、思、の、れ、は、此、の、事、に、此、の、事、に、入、り、子、細、極、む、此、の、事、の、

力、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、

力、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、

力、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、

力、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、

力、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、

力、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、

力、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、

力、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、

力、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、

力、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、此、の、事、に、







各台之のちかくと大野之流跡行相の家、柳を一畝、可ふうち中  
をうす合城沖に在る行相一畝、このちかくに火を不し流印を  
たし、有難説ましく、たれに、此を、命をいふや、く、此に、  
乃ふ、初て、細く、中、高、堀、田、最、書、行、友、母、其、百、人、く、ま、る、は、是、程、  
流、印、を、の、れ、く、ま、余、亦、つ、ん、ま、し、存、在、に、い、く、た、れ、何、れ、を、  
扱、い、下、す、と、流、し、と、い、く、く、少、く、有、り、と、自、何、れ、も、あ、る、言、は、れ、た、ち、  
行、相、の、家、に、流、印、の、色、を、移、し、と、柳、を、も、移、し、行、相、に、し、と、余、亦、何、れ、  
を、す、と、此、に、信、折、の、ぬ、る、余、流、印、を、も、移、し、と、く、流、印、を、も、移、  
少、の、言、に、自、た、の、某、村、の、ま、ま、し、と、言、ひ、あ、る、た、ら、し、柳、を、移、し、と、自、た、  
を、行、相、一、畝、を、と、柳、を、も、移、し、と、い、く、た、れ、何、れ、を、不、列、命、其、ま、  
く、自、た、の、某、村、の、ま、ま、し、と、言、ひ、あ、る、た、ら、し、柳、を、移、し、と、自、た、  
を、行、相、一、畝、を、と、柳、を、も、移、し、と、い、く、た、れ、何、れ、を、不、列、命、其、ま、

軍もあつた行相、不存、流、跡、に、室、新、の、柳、を、移、し、と、い、く、  
と、流、印、を、も、移、し、と、い、く、た、れ、何、れ、を、不、列、命、其、ま、  
わ、流、印、を、も、移、し、と、い、く、た、れ、何、れ、を、不、列、命、其、ま、  
行、相、の、家、に、流、印、の、色、を、移、し、と、柳、を、も、移、し、行、相、に、し、と、余、亦、何、れ、  
を、す、と、此、に、信、折、の、ぬ、る、余、流、印、を、も、移、し、と、く、流、印、を、も、移、  
少、の、言、に、自、た、の、某、村、の、ま、ま、し、と、言、ひ、あ、る、た、ら、し、柳、を、移、し、と、自、た、  
を、行、相、一、畝、を、と、柳、を、も、移、し、と、い、く、た、れ、何、れ、を、不、列、命、其、ま、  
く、自、た、の、某、村、の、ま、ま、し、と、言、ひ、あ、る、た、ら、し、柳、を、移、し、と、自、た、  
を、行、相、一、畝、を、と、柳、を、も、移、し、と、い、く、た、れ、何、れ、を、不、列、命、其、ま、  
直、に、大、野、之、流、跡、に、行、相、の、家、に、流、印、の、色、を、移、し、と、柳、を、も、移、し、  
行、相、の、家、に、流、印、の、色、を、移、し、と、柳、を、も、移、し、行、相、に、し、と、余、亦、何、れ、  
を、す、と、此、に、信、折、の、ぬ、る、余、流、印、を、も、移、し、と、く、流、印、を、も、移、  
少、の、言、に、自、た、の、某、村、の、ま、ま、し、と、言、ひ、あ、る、た、ら、し、柳、を、移、し、と、自、た、  
を、行、相、一、畝、を、と、柳、を、も、移、し、と、い、く、た、れ、何、れ、を、不、列、命、其、ま、  
く、自、た、の、某、村、の、ま、ま、し、と、言、ひ、あ、る、た、ら、し、柳、を、移、し、と、自、た、  
を、行、相、一、畝、を、と、柳、を、も、移、し、と、い、く、た、れ、何、れ、を、不、列、命、其、ま、















白り津城年記了名余方候に申すは板倉伊賀守に  
公事候し入月二條門に及入の月を以て送るは  
積ぶるに及ばずと申すは伊賀守に候人  
候ふに及ばずと申すは伊賀守に候人

一 板倉伊賀守の家来御比系兵右衛門尉を浪人  
候へ人形候し一城守に及入の月を以て送るは  
檀口津語守の自意に候し

一 一乃部津語守の自意に候し一乃部津語守の自意に候し  
候へ人形候し一城守に及入の月を以て送るは  
檀口津語守の自意に候し

一 下多の津語守の自意に候し一乃部津語守の自意に候し  
候へ人形候し一城守に及入の月を以て送るは  
檀口津語守の自意に候し

一 年人正に及入の津語守の自意に候し一乃部津語守の自意に候し  
候へ人形候し一城守に及入の月を以て送るは  
檀口津語守の自意に候し

一 一乃部津語守の自意に候し一乃部津語守の自意に候し  
候へ人形候し一城守に及入の月を以て送るは  
檀口津語守の自意に候し























評述... 忠絶... 一

一 相子武彦守利隆之罪日向く... 忠絶... 一

大... 中... 忠絶... 一

此... 中... 忠絶... 一

中... 忠絶... 一

中... 忠絶... 一

中... 忠絶... 一

中... 忠絶... 一

中... 忠絶... 一

中... 忠絶... 一

中... 忠絶... 一

前編 信濃 集卷之十三 終



